

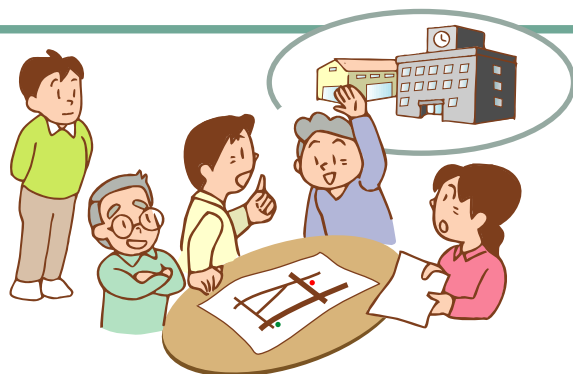
地域での備え

大災害が発生したとき、個人や家族の力だけでは限界がありますが、地域の人々が協力すれば大きな力になります。日ごろから地域の活動に積極的に参加することが、自分の家族や家を守ることに繋がります。

自主防災組織とは

災害時は、建物の倒壊、道路の寸断や交通渋滞、通信手段の混乱などから、市役所や消防などの公的機関だけの力では十分な防災活動ができないことが考えられます。そんなとき頼りになるのは、地域の人々が自発的につくる防災組織（自主防災組織）です。

普段から自治会の集まりなどを利用して、地域の防災についてよく話し合い、災害から守るための自主防災組織をつくっておきましょう。その活動を通じて、住民同士の連帯感と防災意識を高めておくことが、災害に強いまちづくりになります。



自主防災組織の役割

平常時の活動

防災知識の普及・啓発

防災訓練や講習会を通じて、正しい防災知識を地域住民に伝える。



地域内の防災環境の確認

地域内に被害の拡大につながる原因がないか、また一人暮らしの高齢者世帯など援助を必要としている人がいないかなどの確認を行う。

防災訓練の実施

災害を想定して訓練を行い、消火器の使用法など防災活動に必要な知識や技術を習得する。

災害時の活動

初期消火

避難誘導

救出・救助

負傷者の救出、救護所への搬送など。

避難所の管理・運営

水や食料などの分配、炊き出しなどの給食・給水活動。

情報の収集・伝達

災害に関する正しい情報の収集とその伝達を行う。



災害時要援護者を地域で支援しよう

突然の災害に見舞われたとき、大きな被害を受けやすいのは、高齢者や子ども、障がい者、傷病者、外国人などなんらかの手助けが必要な人（災害時要援護者）です。災害時要援護者を災害から守るために、地域で協力し合いながら支援していくことが必要です。

- 日ごろから災害時要援護者との交流を密にしましょう。
- 災害時要援護者の身になって防災環境を点検しましょう。
- 地域での支援・協力体制を具体化しましょう。



地域の代表・・・消防団

火災や地震などの災害発生時には、消防署や消防団が出動しその対応に当たっています。

館山市は、現在、本部役員を始め、9分団24個部で組織されており、消防団員は、自分の仕事に従事するかたわら、火災や、水害、津波などの際の出動を始め市民に対し、防火、防災意識の高揚を図るなど、地域と密着した活動を行っています。消防団は、自主防災組織とともに地域防災の要として安全なまちづくりに寄与しています。

